

Minami こども教室

2019 年度 事業実施報告書



2020 年 4 月 Minami こども教室 実行委員会

目次

1. 事業の背景と目的	3
1.1 事業の背景	3
1.2 事業の目的	3
2. 事業の実施内容	3
2.1 実行委員会による運営	3
2.2 放課後学習教室の実施	4
2.3 課外学習の実施	5
2.3.1 盆踊り（8月）	5
2.3.2 料理教室（12月）	6
2.3.3 遠足（3月）	6
2.3.4 連携団体等の行事参加	6
2.4 保護者・家庭への生活支援	7
2.5 小学校・中学校との連携	8
2.6 学習支援ボランティアの募集と育成	8
2.7 ネットワーク強化のための取り組み	9
2.7.1 タウンミーティングの開催	9
2.7.2 こども食堂「しま☆ルーム」との連携	9
2.7.3 フィリピンコミュニティとの共同企画	10
2.7.4 その他団体との連携	11
2.8 取材協力	11
3. 事業の成果と課題	11
3.1 事業の成果	11
3.2 事業の課題	13

1. 事業の背景と目的

1.1 事業の背景

大阪市は全国の政令指定都市の中では、人口に占める外国人登録者数の比率が最も高い。大阪市「外国人住民国籍別人員調査表」によると、2019年9月末現在、大阪市内には約14万3千人の外国人住民が暮らしており、その数は近年増加傾向にある。また、文部科学省が調査する「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況に関する調査（平成30年度）」によると、大阪府内には日本国籍と外国籍の児童生徒を合わせ、3,632人に日本語指導が必要なのことがわかっている。

このような「外国人集住地域」である大阪市において、2012年4月に外国籍女性による実子刺殺自殺未遂事件が起こった。このような事件を二度と引き起こしてはいけなと、亡くなった児童が通っていた大阪市立南小学校が中心となり、問題意識を共有する団体や個人が集まり、「外国人母子支援ネットワーク事業」が発足された。中央区内には、日本語での学習や教科学習に困難を抱えるばかりでなく、仕事が忙しい保護者との時間が持てず、孤立状態になる「外国にルーツをもつ子どもたち」が暮らしているという実態がわかってきた。

2013年5月、大阪市立南小学校から支援要請を受け、外国にルーツをもつ子どもが通える学習支援教室、「Minami こども教室」を立ち上げるための実行委員会が結成された。2013年7月～8月にかけてボランティア養成講座が実施され、2013年9月より学習支援教室が開始された。

1.2 事業の目的

事業の目的は、以下の3点である（Minami こども教室規約より）。これらの目的達成のため、外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした学習支援教室を運営している。

1. 地域の外国にルーツのある子どもたちの補充学習と子どもたちの支えあう関係づくりに資する活動を行う。
2. 外国人家庭の自立のために必要な情報提供や社会資源の活用機会拡大に努める。
3. 地域の多文化共生を促進させ、誰もが差別されず、のびやかに暮らしていける社会づくりの一助となる。

2. 事業の実施内容

2.1 実行委員会による運営

本事業の実施体制として、上記背景のような課題解決に賛同する複数の支援団体や個人とともに、実行委員会形式による事業運営を行なっている。実行委員会構成メンバーの特徴は、すでに大阪市内で外国にルーツを持つ子どもたちへ

今年度は去年度よりも実行委員兼、教室運営コーディネータの数を増やした。これは、長年携わってきた実行委員が本職との関係で、教室に頻繁に通うことができなくなったためである。なお、新しい実行委員兼、教室運営コーディネータは、これまで教室ボランティアとして熱心に活動に参加してくれた方々に依頼した。

道仁連合会館（大阪市中心区島之内）

教室ボランティア：61名（2019年4月～2020年3月参加実績のある方）

を用いた対話型学習「Minami Fun Time」を実施している。また、毎月第4火曜日（18:00~18:15）には、島之内図書館の読み聞かせボランティアによる読み聞かせの時間を設けている。

子ども参加者数：小学生43名、中学生27名、高校生10名（新規登録22名）
発足当初は小学3年生以上の小学生を対象にしていたが、小学生時代に本教室に通っていた卒業生を中心に、支援の必要な中高生も継続して教室に通っている。

新型コロナウイルス対策：2020年2月頃から新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、2月後半から全国の小中高が休校、さらに活動場所である子ども子育てプラザも休館となった。そのため小中高生の通常教室活動は2月25日（火）を最後に休止することとなった。後に詳述するが、生活支援や子どもの見守りのための活動は継続した。

2.3 課外学習の実施

Minami こども教室に参加する子どもたちの多くは、保護者が不定休であったり、夜間に仕事をしているなどの理由から、休日に遠出をする機会が少ない。そのため、通常の学習教室に加え、子どもたちの社会教育・文化的活動の場として課外学習を実施している。内容に応じて、地域の団体や、関連する団体に協力を要請した。また、保護者の見学や参加も積極的に呼びかけた。

2.3.1 盆踊り（8月）

実施日：2019年8月3日（土）

実施場所：瓦屋町グラウンド

参加者数：子ども19名、大人9名 計28名

内容：地域で行われる盆踊り大会に参加した。今年も地域の子ども食堂「しま☆ルーム」と合同での参加となった。島之内にある道仁連合会館の部屋を借り、両団体のボランティアが子どもたちの浴衣の着付けやヘアアレンジを行った。集合場所を確保して、飲み物を用意し子供達が自由に祭りに参加ができるように取り計らった。今年は地域からの寄付でこどもたちに金券を配布することができ、一人500円、屋台で買い物を体験することができた。今年度は参加者が多く、浴衣と帯が足りないほどであった。そのため、地域のボランティアから浴衣の寄贈をいただいた。こどもの参加意欲が高く、終了の集合時間に子どもを集めるのに人手を要したため、来年はさらにボランティアを増やすことが課題になりそうである。



2.3.2 料理教室（12 月）

実施日：2019 年 12 月 18 日（水）

実施場所：大阪市立南小学校 家庭科室、多目的室

参加者数：約 80 名（子ども、ボランティア、しま☆ルーム、保護者等含む）

内容：2018 年度までは、夏季と冬季の年 2 回、料理教室を実施していたが、近年の夏の猛暑による熱中症や食中毒などへの懸念から、今年度から冬季のみ実施することになった。なお、今回も連携団体のしま☆ルームと合同で企画、実施した。メニューは「カレーライス」。中学生以上の子どもをリーダーとして、小学生が調理に参加し、ボランティアが見守った。こども達は自分で料理したカレーを喜んで食べた。食事の後、しま☆ルームからチョコレートディップができるタワーの提供があり、こどもたちは大喜びだった。また、ボランティアとこどもによる音楽会が開催され、大いに盛り上がった。参加者は、Minami こども教室やしま☆ルームの子どもたちだけでなく、ボランティアの子どもたちも参加し、総勢 80 名の大イベントとなった。



2.3.3 遠足（3 月）

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、遠足の実施は次年度に延期した。

2.3.4 連携団体等の行事参加

上記の課外活動は、Minami こども教室の正式行事として行っているものであるが、その他にも、連携団体等からの招待を受け、Minami こども教室の子どもたちが参加する機会があった。以下の行事では、実行委員が引率し、行き来の安全を心がけた。

◆ ヤングアメリカンズ

実施日：2019 年 5 月 2 日（木）、3 日（金）、4 日（土）

実施場所：大阪国際交流センター

主催：NPO 法人じぶん未来クラブ

Minami こども教室からの参加者：中高生 8 名

◆ おおさか多文化フォーラム（進路説明会）

実施日：2019 年 7 月 21 日（日）

対象：中学生

引率：実行委員から 4 名引率

◆ 大阪樟蔭女子大学 映像ワークショップ「みんなで DST 作品を作ろう！」

実施日：2019 年 7 月 27 日（土）、8 月 3 日（土）

対象：中高生

引率：実行委員から 2 名引率

◆ Do Sports Fes 2019

実施日：2019 年 10 月 14 日（月）

実施場所：ヤンマースタジアム長居、長居球技場

主催：(財)大阪市スポーツ振興協会

Minami こども教室からの参加者：小学生 3 名

◆ キッザニア職業体験

実施日：2019 年 11 月 20 日（水）

実施場所：キッザニア甲子園

Minami こども教室からの参加者：小学生 22 名

「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」が支援する市民団体「おおさかこども多文化センター」からの紹介で、「キッザニア甲子園プレミアムナイト」への招待があり、しま☆ルームと合同で参加。

◆ 同志社大学体験訪問

実施日：2019 年 12 月 21 日（土）

実施場所：同志社大学京田辺キャンパス

Minami こども教室からの参加者：小学生 6 名 中学生 7 名 高校生 1 名

同志社大学学生サークル「Mosaic~共に生きる~」からの呼びかけにより、訪問が実現した。大学の広いキャンパスで、大学生が考えてくれた様々な教育的なレクレーションをした。大学生というロールモデルが身近に感じ、帰宅中に「同志社大学に入学したい！」という中学生もいた。

◆ 餅つき大会

実施日：2020 年 1 月 12 日（日）

実施場所：道仁公園

道仁連合町会が実施する餅つき大会に子どもたちをつれて参加。餅つきの他昼食には豚汁が振る舞われた。地域に根差した活動となっている。

2.4 保護者・家庭への生活支援

本事業では、子どもを支えるのに不可欠な保護者との連携にも力を入れている。それぞれの子どもの状況や家庭環境、成育歴に応じた支援をすべく、登録の際には保護者へのヒアリングを行い、承諾書にもサインをもらっている。

また、小学校との連携のもと、2019 年 7 月 10 日（水）、11 日（木）、12 日

(金)に実施された南小学校の保護者懇談会の後、Minami こども教室の懇談会の時間をとってもらい、3日間で、14名の保護者と懇談することができた。

特に見守りが必要な家庭には、区役所等へ同行をし、児童扶養手当申請等の行政手続きの支援を行った。生活に変化のあった家庭や、乳幼児のいる家庭には、家庭訪問を頻繁に行い、生活面での困難を相談、解決できるよう努めた。また、引っ越しなどの際には、ボランティアが駆け付け、作業を手伝った。

2.5 小学校・中学校との連携

設立当初から南小学校の校長が実行委員として関わっており、実行委員会で定期的に情報交換を行っている。南小学校の卒業生が多く在籍する大阪市立南中学校とも懇談会を実施している。学校と実行委員会が定期的に子どもの様子や学習課題について共有することによって、子どもの生活の変化や緊急を要する事態にも対応することができた。

2.6 学習支援ボランティアの募集と育成

教室での子どもへの学習支援はボランティアが担っている。教室運営に欠かせないボランティアの方々との問題意識の共有は大切である。

今年度は、ボランティア研修会を2度開催した。7月30日(火)に「あなたの名前は」と題して子どもと大人両方に研修を行った。大人16名、子ども10名が参加した。外国にルーツをもつ子どもの民族、文化、言語に由来する名前を尊重することの意義について、実行委員から全体に話をした。小学校や中学年の子どもたちが理解できる内容をめやすに、実体験を交えながらシンプルな言葉で語りかけ、その後子どもと大人をわけ、名前について話し合う場をもった。

10月29日(火)には、南小学校の石井教諭に講師を依頼し、南小学校日本語教室の現状と学習方法についてボランティア研修会を行った。子どもたちの学校での様子や、日本語教室での取り組みについて知ることができ、教室で接する子どもたちの姿との違いなどの気づきが得られた。また、Minami こども教室では日本語教室から出された宿題を優先的に行っていくことが全体共有された。参加する子どもたちの増加に伴い、新たなボランティアの募集も随時行っている。募集方法としては、ボランティア募集のウェブサイトや大阪市のポータルサイト、関係のある大学教員などへの呼びかけ、実行委員やボランティアの口コミなどである。

第4週火曜日をボランティア見学会として設定しており、見学会参加者らに教室についてのオリエンテーションをした後、子どもたちの側で教える体験をしてもらっている。

また、大学生に外国にルーツをもつ子どもたちの現状や多文化共生社会実現の必要性を学び、ボランティアとして参加してもらうために、実行委員が大学などで講演をしたり、集団で見学を受け入れたりしている。

2.7 ネットワーク強化のための取り組み

2.7.1 タウンミーティングの開催

実施日：2019年6月14日（金）18:00-19:40

実施場所：中央区子ども・子育てプラザ3階、道仁連合会館3階（懇親会）

参加者：計49名

実行委員（13名）、教室ボランティア（2名）、南小中教員（5名）、高校教員（6名）、大阪弁護士会（8名）、地域の連携団体（7名）、教育委員会（2名）、社協（1名）、メディア（4名）、その他（1名）

今年度初の取り組みとして、「Minami こども教室タウンミーティング」を企画した。企画の目的は、これまで連携してきた関係者らとともに、この地域の社会資源に関する情報や課題を棚卸しすることである。また、参加者同士の新たな交流が生まれることによって情報発信やネットワーク強化をねらいとした。

前半は実行委員の原と瀬戸による Minami こども教室の報告、後半は参加者全員でグループワークを行った。グループワークのテーマは、Minami こども教室の「成果」「課題」「提案」と設定した。参加者らは時間が足りなくなるほど活発な議論をしていた。今後の教室運営に向けて視座に富む発表があった。

また、懇親会は道仁連合会館で行った。参加者らのネットワーク拡充の場になっており、盛況となった。また、実行委員長が韓国料理とフィリピン料理を事前に予約しており、参加者らはそれぞれの味を楽しむことができた。NHKの映像「さやかと力」を上映した。その場にいた子どもたちが大変熱心に見ており、登場人物に共感しつつ、自分たちの過去を振り返りながら、さらに高校受験など、これからについて考えている様子だった。



2.7.2 こども食堂「しま☆ルーム」との連携

毎週水曜日に中央区島之内で開催している「しま☆ルーム」には、Minami こども教室に通う子どもたちがたくさん参加しており、合同で料理教室を主催したり、盆踊り大会に参加したりと協力関係を深めている。

特に2月後半以降の新型コロナウイルス肺炎の感染拡大により、教室の通常活動ができなくなってしまった一方、しま☆ルームは「食堂」という形ではないが弁当配達を継続していた。しま☆ルームの配達には、Minami こども教室の実行委員も参加し、配達時に子どもたちの様子を確認しながら、見守りを続けることができた。

2.7.3 フィリピンコミュニティとの共同企画

Minami こども教室の子どもたちの約半数がフィリピンにルーツをもっていることから、今年度はフィリピン人への生活相談を重点的に行った。在大阪・神戸フィリピン総領事館やフィリピン人コミュニティ「サウスイーストアジアコミュニティ」と共同企画を開催した。

◆ Filipino Parents and Children

実施日：2019年7月13日（土）

実施場所：道仁連合会館

参加者：4家族

内容：比較的来日歴の浅いフィリピン人を対象に、フィリピン人コミュニティのリーダーが司会進行をしながら主に子育てに関する相談会を行った。子どもたちは一般的なフィリピンの玩具で遊び、フィリピン文化に触れた。

◆ 健康相談会

実施日：2019年9月15日（日）

実施場所：道仁連合会館

参加者：5名

内容：中央区役所保健福祉課子育て支援室の担当者と保健師が来てくれ、それぞれの年齢や保険に応じた健康診断の相談などをしてくれました。来日歴の長いフィリピンコミュニティのリーダーが自身の闘病体験について語り、参加者にとって良い啓発になった。

◆ フィリピン政府機関 海外フィリピン人委員会の相談会

実施日：2019年9月27日（金）

場所：大阪府中央区子ども子育てプラザ

参加者：8名

フィリピン政府機関 海外フィリピン人委員会（Commission for Filipinos Overseas）による相談会が開催された。これはフィリピン政府から6名の要人が来日し、在日フィリピン人の生活実態やコミュニティの活動実態を視察するという「Ugnayan sa Japan」事業の一環であった。

在大阪・神戸フィリピン領事館やカトリック教会、サウスイーストアジアコミュニティの参加もあり、様々な観点について問題を共有することができた。日本での生



活に関連するフィリピンの法律やフィリピン政府の取り組みなどの情報提供もあった。

2.7.4 その他団体との連携

連携団体である「こどもひろば」には、主に高校生が勉強会に参加した。また毎年恒例の同窓会などにも参加し、交流を深めた。

また、発足以来、子どもたちが暮らす島之内地区の道仁連合町会からも手厚い協力をいただいている。具体的には、町会主催の行事への参加や、連合町会が有する道仁連合会館という施設の利用などである。Minami こども教室のような非営利団体が活動する場所が限られているこの地域において、公共性の高い施設を使用させてもらえることは大変ありがたいことである。

今年は、同志社大学のボランティアサークル「Mosaic~共に生きる~」から招待を受け、12月21日に同志社大学のキャンパスを見学した。学校施設をしようした研究体験やクイズラリー大学食堂でのランチなどを経験した。小学校高学年から高校生が参加し、大学を体験したことで、子供達が将来の進路を想像し、希望を持つ良い機会となった。

また、今年度から大阪府中央区社会福祉協議会の紹介で、公益社団法人「全国環境対策機構」主催の「JEO 子ども食堂」に参加することになった。この子ども食堂は、月に1度土曜日に、中央区南本町にある「一華」というレストランで開催されており、Minami こども教室に通う子どもたちや保護者を引率している。

2.8 取材協力

今年度も外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援教室のモデル事業として、複数のメディア関係者から取材依頼を受けた。継続取材も含む。

- ◆ ドキュメンタリー映画『(仮) 居場所のチカラ』
- ◆ 朝日放送『キャスト』
- ◆ ETV 特集『ニッポンで生きてゆく：外国ルーツの子どもの夜間教室』

3. 事業の成果と課題

3.1 事業の成果

Minami こども教室の事業成果を以下にあげる。

- ◆ 新規に登録する子どもが増加：小学校や中学校から紹介、あるいは親や子ども同士の口コミなどで新たに教室に参加する子どもが増えている。また、現在参加している子どもに妹や弟がいる場合は、学齢期になると必ず登録する。親が安心して子どもたちを Minami こども教室に通わせてくれていることがうかがえる。
- ◆ 子どもたちの定着率の高さ：当初は小学生のみを対象としていたが、小学

校を卒業して中学生になっても高校生になっても教室に通い続ける子どもがいる。何年も通っている子どもにとって、教室が「居場所」としての機能を果たしていると言える。また、他地域に転出した子どもたちも、継続して教室に来たり、遠くて通えない場合でも遠足などには参加したりしている。

- ◆ セーフティネットとしての機能： 子どもだけでなく、保護者も実行委員長をはじめとするコーディネータやボランティアに相談をするようになっていく。何かあったときに信頼できる大人がいること、子ども同士の仲間意識の芽生えていることなどから、子どもが安定しているように見える。具体的な生活支援としては、夜間の見守りや、家庭訪問、法律相談や医療機関への付き添いなど、多岐にわたる。これは、コロナ禍においてもいえることである。2月以降、Minami こども教室の保護者から生活や仕事に関する相談が相次いだ。これまでセーフティネットとしての役割を担ってきたからこそ、有事の時にも相談の窓口となることができた。
- ◆ 学校との連携： 去年の報告書では、「学習支援の形骸化」が課題として挙げられた。「居場所だから何でも自分たちが好きなことができる場」ではなく、「学習を通して子どもたちが自信を持てる場」を目指し、今年度は、小学校との懇談時に、子どもの様子だけでなく、学習内容や使用している学習教材について細かく聞き取りをすることができた。また、日本語教室の担当教諭にボランティア研修会に来て頂けたおかげで、日本語教室と Minami こども教室の学習の連続性を意識づけることができた。
- ◆ 中学生・高校生への支援体制の強化： 2018年度の報告書で以下のような課題があげられた。「当初は小学生を対象に開始した教室であるが、中学・高校に進学しても、教育支援のニーズがなくなるわけではない。むしろ勉強が難しくなり、受験対策などもあるため、中高生に集中した学習支援が必要である。さらには、進路に悩みを抱えている若者たちの就労支援なども将来的には行っていく必要性がでてくるだろう。進路保障の観点から、小中高と連携し、一人ひとりの未来を見据えた支援を考えていかなければならない。」この課題を解決するために、2019年度4月・5月の実行委員会で中高生教室の空間的分離について協議し、5月28日（火）より実際に教室を二つに分けて実施することになった。実行委員の元中学校教員と元高校教員が中心となり、中高生の学習面でのサポートを強化することができた。
- ◆ 高校受験のサポート： 今年度、Minami こども教室に通っていた中学3年生は6名であった。全員が第一志望の私立高校2名、大阪府立高校4名に合格した。当初、高校進学自体に意欲的でなかった生徒も、教室でコーディネータやボランティアに励まされ、高校進学という道を自ら選んだことも進路保障という点において意義深かった。また、中学生は Minami こども教室に通う高校生をロールモデルとして見ていたのではないかとと思われる。さらに、3月には府立高校の合格者説明会には実行委員が付き添い、入学先

高校の教員との連携を結ぶ良い機会となった。

3.2 事業の課題

本事業には以下のような課題もある。

- ◆ 運営面での基盤 : 2019 年は他団体や地域との連携を強化することによって、保護者や地域の子どもたちへの支援活動を拡充することができた一方で、Minami こども教室の運営を担う事務局マンパワーの不足が課題である。特に会計事務は煩雑な作業であり、実行委員から会計係を決めたが、負担が大きくなっている。さらなる作業の円滑化が必要である。
- ◆ 財政面の安定化 : 2019 年度は、東教育財団、善意銀行、公益財団法人日本教育公務員弘済会大阪支部（大阪教弘）、関西 NGO 協議会から資金的助成を受けた。また、個人や団体から寄付もいただいた。しかし、活動をさらに拡充していくためには、継続的で安定的な収入の確保が求められる。
- ◆ 学習支援の形骸化 : 居場所やセーフティネットとして機能している一方で、教室に通う特に小学生の学習への意欲を向上させられているか疑問が残る。今後も小学校や中学校との連携を模索し、学習支援と居場所を相互作用で高めていくことができるよう、来年度以降、対策が必要である。
- ◆ 進路進学サポートにむけて : 3 年前から本格的に中学 3 年生を対象に受験勉強のための学習支援を開始した。毎年その年の中学 3 年生の背景に寄り添って学習支援を行っている。しかし、最近では継続して教室に通う高校生が増え、その進路進学サポートがより多様化・専門化してきている。Minami こども教室から巣立っていく若者たちが、経済的に自立した生活を歩んでいくため、実行委員など関わる大人が、奨学金制度や進路進学を選択肢についての知識を得る必要がある。
- ◆ 行政、学校、地域、他団体との連携強化 : Minami こども教室はマンパワー、専門性、財政面などにおいてまだまだ未熟な組織である。自分たちになり資源は、行政や学校、他団体から協力してもらわなければならない。そのためにも連携団体との協力関係をより一層強化していく必要がある。

以上